



性被害の実態調査アンケート

結果報告書①

～量的分析結果～

はじめに

私たちは性暴力のある社会で暮らしています。

高校生を対象とした調査では女子の63%が何らかの性暴力被害を経験し、最も多かった回答は「無理やり体を触られた」(37%)でした。レイプの被害率は5.3%になります。男子も29%が性被害を経験したと答えています(野坂, 2005)。セクシュアル・マイノリティの調査は今後の課題ですが、複数の調査から過半数の女性が性暴力被害にあい、男性の被害者も珍しくないことが明らかになっています。

しかし、性暴力被害はこれまで見えなくされてきました。

被害を受けると思われてきた少女たち・女性たちは「見知らぬ人には気をつけるように」「家に入るときは背後を確認するように」「短いスカートをはかないように」と度々、警告や注意をされ、被害を受けると「あなたにも隙があった」「落ち度があった」と批難されてきました。

藤岡は『男性は性犯罪者に間違われないうために、夜道で女性の後ろを歩くこと、電車で女性に密着すること、エレベーターで女性と二人きりになるといった「些細な」自由の制限にさえ不満を述べるのに、女性は、自由に対する制限を受け入れ、その結果、制限を受け入れている自分を一種劣った存在とみなしていく(マクニール, 2001)』との研究を紹介しています(藤岡, 2006)。

刑法性犯罪は、性的自由・性的自己決定権を保護するものと考えられています。

しかし、暴行・脅迫要件や抗拒不能(抵抗できなかった状態)の適用が狭く、多くの被害を救えていないと批判され、2020年3月に法務省の「性犯罪に関する刑事法検討会」(以下、性犯罪検討会)が設置、議論が始まっています。被害当事者として初めて私も委員に加わりました。

この性犯罪検討会に、性暴力の本質的な問題を届けたいと始まったのが本調査です。

開始直後から大きな反響があり、わずか1日で1000件を超える回答が寄せられ、3週間で5899件もの声が寄せられました。

被害が認識しづらく、記憶を取り戻すのも容易ではない実態が明らかになったことから、10月の性犯罪検討会には、強制性交等罪10年、強制わいせつ罪7年の現行の公訴時効では短すぎることを意見を述べました。

これからも、性犯罪検討会に調査結果の声を伝えていきたいと思えます。

しかし、性暴力のない社会、対等な人間として尊重され、自由が守られる社会は刑法性犯罪改正だけでは叶いません。質的調査から明らかになったように、正しい情報を伝える性教育、被害者批難を排し、加害者の責任を問えるような社会全体の意識変化も求められています。

これまで社会が聞いてこなかった声に、謙虚に耳を傾け、その経験からどうすれば性暴力のない社会を作れるのかを、考えることが必要です。届けられた声に応え、共に性暴力のない社会をつくりましょう。

一般社団法人Spring代表理事
山本潤

目次

【性被害の実態調査アンケート結果報告書① ～量的分析結果～】

はじめに（山本潤）	1			
目的・方法・限界・チームメンバー（齋藤梓）	3			
データの概要（齋藤梓・西田なつみ）	6			
1. 現在の年齢	／2. 性別・性自認	／3. 出来事内容	／4. 被害時の年齢	／5. 被害継続年数
6. 加害者の人数	／7. 加害者の性別	／8. 加害者との関係	／9. 被害時の状態	／10. 加害者の言動
11. 被害認識可否	／12. 被害認識年数	／13. 身近な人への相談	／14. 身体への相談	／15. 専門家相談
16. 警察相談	／17. 刑事手続	／18. 被害記憶	／19. 性交を知った年齢	／20. 性交同意年齢
暴行脅迫要件・抗拒不能要件・不同意性交にかかわるまとめ（西田）	31			
地位関係性を利用した性被害（金田智之）	43			
性交同意年齢について（鎌田華乃子・岩田美佐）	51			
公訴時効について（齋藤梓）	54			
おわりに（山本潤）	62			

【性被害の実態調査アンケート結果報告書② ～量的分析所感～】

執筆：齋藤梓

1. 回答者の属性	1
2. 出来事内容および加害者属性等	1
3. 被害認識および相談や刑事手続について	2
4. 現在の刑法改正をめぐる検討点について	3
5. 性被害の実態調査の結果から	6
6. 本調査の限界と今後の展望	7
7. 最後に	7
参考資料：アンケート調査内容	9

【性被害の実態調査アンケート結果報告書③ ～質的分析結果および考察～】

執筆：岩田千亜紀

1. 質的分析の結果	2
2. 考察	9
参考資料：自由記述回答内容	15

【目的】

性暴力被害の実態を把握し、社会に伝える
性犯罪に関する刑事法検討会の議論に、性暴力被害の実態を伝える

【方法】

調査方法 : クエスタントを使用してWEBアンケートを作成し、SpringのWEBサイトにて公開した。
また、WEBアンケートについて、SpringのSNSおよびメーリングリストで告知を行った。

調査内容作成 : アンケート項目は、性暴力被害当事者であるSpringスタッフおよびOne voiceメンバーが実態調査という目的に沿って作成したものを、Springの要請に基づいて外部協力研究者が社会調査として適切な形に修正し、SpringスタッフおよびOnevoiceメンバーとの数回にわたる協議、試行の後に決定した。なお、項目を作成及び決定の際には、本アンケートは性暴力被害の実態を明らかにするものであること、かつ回答者に過度の負担をかけないことに重点をおいた。

調査内容 : アンケート項目は、現在の年齢と性別（または性自認）、出来事の内容を尋ね、何歳の時に起きた出来事か、継続的な被害であったか否か、加害者の人数、加害者の性別、加害者との関係、被害時の自分の状態、被害時の加害者の言動、被害認識、相談行動、刑事手続結果、被害の記憶の有無、性交を知った年齢、性交に同意できると思う年齢について尋ねた。詳細は性被害の実態調査アンケート結果報告書②参考資料を参照。

調査期間 : 2020年8月16日から2020年9月5日まで

対象者 : 性被害を受けたことがあるならば、年齢性別を問わず回答可能とした。
なお、回答は出来事ごととしたため、1人が複数回の被害に遭遇しており、複数回の被害について入力したいと考えた場合には、アンケートに複数回回答することとなる。

倫理的配慮 : 説明文にて性被害経験について問うアンケート項目であることを明記し、事前に協力者が回答について検討できる用意をした。その上でアンケート内に性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターおよび全国被害者支援ネットワークの連絡先を掲載した。また、アンケートのはじめに、年齢と性別以外に個人が特定される情報は尋ねないこと、回答は任意であること、回答を途中でやめても不利益がないこと、回答内容の多くは統計的にまとめられること、自由記述の項目で個人が特定されかねない情報が含まれていた場合には削除した上で結果を公表することなどを記載した。

分析 : データの分析はSpring内有志のスタッフおよび外部協力研究者が行った。
量的分析においては、ExcelおよびSPSSver25を使用した。

用語について : 本調査のタイトルは「性被害」としたが、本文では基本的に、同意のない性的言動は性暴力、つまり暴力であるという立場に立ち「性暴力」と述べる。また、警察が関わり事件化された被害をさす場合には「性犯罪」という用語を用いることもあり、包括的に「性犯罪・性暴力」と記す場合もある。

【限界】

・本調査はSpringがSNS等で広報し、「性犯罪刑法について意見を述べる資料とすること」を目的と明記した上で回答を集めたため、回答者は日ごろから性暴力・性犯罪の問題に関心を抱いている被害当事者、あるいは自身の被害について社会に伝えたいという思いを持った当事者であった可能性がある。本調査に回答していない、本調査の存在を知らない被害当事者も多く、結果の解釈の限界もある。

・WEBアンケートは一般的に、対面で紙媒体で行う質問紙調査と比較して、回答に虚偽が混ざる、あるいは問題文を精読せずに回答する傾向が見られ、努力の最小限化検出項目を用意する必要性も言及されているが、本調査は被害内容について回答を求めるといった調査の性質に鑑み、問題文を精読せずに回答する傾向はあまり出現しないと考えた。また、質問項目を最小限にと作成したこともあり、努力の最小限化検出項目は設けていない。

【性被害の実態調査アンケート実施チーム】

＜Springスタッフ＞

森 隆志 アンケートフォーム作成、動画作成、マネジメント
佐藤由紀子 アンケート作成、広報
金子深雪 アンケート作成
金田智之、西田なつみ、鎌田華乃子、岩田美佐 アンケート分析、報告書執筆
その他Springスタッフ アンケート作成助言、アンケート広報

＜One voiceメンバー＞

川北 かおり アンケート作成
大竹 宏美 アンケート作成
その他One voiceメンバー アンケート作成助言、アンケート広報

＜外部研究協力者＞

齋藤梓（目白大学） アンケート作成、アンケート分析、報告書執筆
岩田千亜紀（東洋大学） アンケート分析、報告書執筆

【本報告書および外部研究者の位置づけについて】

本報告書は外部研究協力者が分析及び執筆に協力をしているが、一般社団法人Springの主張に関わらず、あくまでもアンケートの内容を分析し、その結果に基づいて記載されたものである。各章の内容については担当執筆者が文責を負う。

【データの概要】

- ・回答総数は5911件であった。
- ・そのうち最初の質問以降回答のなかった12データを削除し、5899件のデータについて分析を行った。
- ・また、データを出来事内容別に分けた分析も実施した。
- ・なお、回答者への負担を軽減するため、すべての項目で「回答しない」ことが可能であり、欠損値が生じており、分析対象データ数は分析内容ごとに異なっている。また、例えば現在の年齢から被害に遭った年齢を引いた場合に-になるなど、明らかに回答の誤りの場合はのぞいて分析した。
- ・出来事内容は以下の項目で尋ねた。

「加害者に身体の一部や異物を口や肛門、膣に挿入された／させられた」「加害者の性器、胸等を触らせられた」「加害者に衣服の上から身体を触られた」「加害者に服を無理やり脱がされた／脱がさせられた」「加害者に衣服の下にあたる部分の身体を触られた」「加害者に下着や裸を撮影された」「加害者の性器、胸等を見させられた」「その他」

データの分け方は以下の通りである。

5899データの定義

→出来事内容で分けず、5899件すべてを含むデータ

「挿入を伴う被害」の定義 1274件（以下「挿入を伴う」）

⇒「加害者に身体の一部や異物を口や肛門、膣に挿入された／させられた」にチェックが付いたデータ

「挿入を伴わない身体に触れる被害」の定義 3764件（以下、「身体に触れる」）

⇒「挿入を伴う被害」をのぞき、下記の項目にチェックが付いたデータ

- ・加害者の性器、胸等を触らせられた
 - ・加害者に衣服の上から身体を触られた
 - ・加害者に服を無理やり脱がされた／脱がさせられた
 - ・加害者に衣服の下にあたる部分の身体を触られた

「撮影のみの被害」の定義 64件（以下、「撮影」）

⇒「加害者に下着や裸を撮影された」にのみチェックが付いたデータ

「見させられたのみの被害」の定義 378件（以下、「見させられた」）

⇒「加害者の性器、胸等を見させられた」にのみチェックが付いたデータ

1. 現在の年齢

- ・回答者の現在の年齢は、表1-1および表1-2の通りであった。
- ・撮影のみの被害の平均年齢がやや低い、すべて平均年齢は30代であり、どの出来事においても20代から40代の回答が多かった

表1-1：現在の年齢の平均と標準偏差

	分析データ数	平均	標準偏差	欠損値
5899データ	5895	34.59	10.13	4
挿入を伴う	1274	35.94	10.58	0
身体に触れる	3760	34.32	9.90	4
撮影	64	30.28	8.97	0
見させられた	378	33.97	10.06	0

表1-2：現在の年齢年齢カテゴリごとの数

現在の年齢（歳）	分析データ数	0-6	7-12	13-15	16-17	18-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79
5899データ	5895	0	2	14	66	139	1827	2116	1210	444	63	14
挿入を伴う	1274	0	0	1	14	26	345	452	282	136	15	3
身体に触れる	3760	0	2	10	40	90	1194	1357	770	254	35	8
撮影	64	0	0	0	1	4	27	25	5	1	1	0
見させられた	378	0	0	1	3	9	127	129	82	21	6	0

2. 性別・性自認

- ・回答者の性別・性自認について、本人記載の内容をまとめたものは表1-3の通りであった
- ・なお、性別・性自認は自由記述で尋ねている。
- ・女性からの回答が90%以上を占めていた。男性及びその他の性別・性自認の回答は少なかった。
- ・これは、実際に女性の被害が多いということだけではなく、「男性や性的マイノリティの被害も積極的に答えてほしい」という旨の広報をしていなかった影響が推察される。

表1-3：

	分析データ数	女性	男性	その他	Xジェンダー	ノンバイナリー	クエスチョニング	トランス男性	トランス女性	無性	決まっていない	中性	両性	クィア	トランスジェンダー
5899データ	5898	5688	65	9	37	24	13	2	1	17	29	5	3	2	3
挿入を伴う	1274	1217	18	0	14	9	6	0	0	2	4	2	1	1	0
身体に触れる	3763	3645	33	7	18	14	5	2	0	11	21	2	1	1	3
撮影	63	60	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
見させられた	378	371	1	1	1	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0

なお、一般的には、上記セクシュアリティは以下のように定義づけられる。（今回は本人記載としたため、記載者の中の定義と異なる場合もある）

- ・Xジェンダーとノンバイナリーは同じく、自身の性自認や性表現を男性や女性といった枠組みに限定しないセクシュアリティであり、本人の記載方法が異なったために分けて表記している。
- ・クエスチョニングとは、自分の性自認や性指向が決まっていない立場を意味する。
- ・トランス男性とは出生時に女性に割り当てられた男性である。
- ・トランス女性とは出生時に男性に割り当てられた女性である。
- ・無性とは、男性・女性などの性という認識が無い性自認を示す
- ・中性とは男性と女性の真ん中の地点に性が存在している性自認を示す
- ・両性とは男性でもあり女性でもあるという性自認を示す。

3. 出来事内容

・出来事内容は、「同意をしてないのにされた性的言動」と定義し、「あなたが経験した性被害の内容」について以下の内容で尋ねた。5899データを回答した中の出来事内容回答者の数、「挿入を伴う被害」にチェックが入った件数の中で他の出来事の回答件数などを、下記の表1-4でしめした。表1-4では言葉を省略している。正確な項目内容は、それぞれ以下の通りである。

「加害者の性器、胸等を見させられた」「加害者に下着や裸を撮影された」「加害者の性器、胸等を触らせられた」「加害者に衣服の上から身体を触られた」「加害者に服を無理やり脱がされた／脱がさせられた」「加害者に衣服の下にあたる部分の身体を触られた」「加害者に身体の一部や異物を口や肛門、膣に挿入された／させられた」「その他」

・なお、複数回答が可能であり、回答者は回答した被害の中で複数の行為が行われた場合には、複数の項目にチェックをつけることも可能である。

・「5899データ」のうち、“衣服の上から身体を触られた” 3770件（63.9%）と最も多く、次いで“衣服の下に当たる部分の身体を触られた” 2039件（34.6%）、“性器、胸等を見せられた” 1845件（31.3%）であった。

・「挿入を伴う」では、“衣服の下にあたる部分の身体を触られた” 763件（59.9%）が最も多く、次いで“衣服の上から身体を触られた” 679件（53.3%）、“服を無理矢理脱がされた／脱がさせられた” 621件（48.7%）であった。

・「身体に触れる被害」のうちに多かった回答は、“衣服の上から身体を触られた” 3091件（82.2%）であった、次いで“衣服の下にあたる部分の身体を触られた” 1276件（33.9%）、“性器、胸等を見せられた” 924件（24.6%）が多かった。

表1-4

	見せられた	撮影された	触らせられた	衣服の上から触られた	脱がされた／脱がさせられた	衣服の下から身体を触られた	挿入を伴う	その他
5899データ	1845	428	1057	3770	992	2039	1274	870
挿入を伴う	497	208	543	679	621	763		
身体に触れる	924	142	514	3091	371	1276		

・「その他」と回答した中には以下の回答も見られた。

「精液をかけられる」「動画を見せられる」「舐められる」「半裸で監禁される」「性的なことを尋ねられる」「卑猥なことを言われる」「性的なことをいいふらされる」「抱きつかれる」「性器を押し付けてくる」「脱衣所やお風呂、トイレを覗かれる」「キスをされる」「そばで自慰行為をされる」「髪や顔をなでられる」「息を耳に吹きかけてくる」「匂いがかがれる」「避妊なしの挿入をされる」「押し倒されそうになる」「飲尿させられる」「写真を閲覧された」

・上記の中でも「精液をかけられる」「キスをされる」「そばで自慰行為をされる」などは多く見られたが、多様な被害が報告された。

4. 被害時の年齢

- ・被害時の年齢は以下の通りであった。
- ・撮影のみのデータの平均年齢が20代であったが、そのほかはすべて10代であった。
- ・「5899データ」「挿入を伴う」「身体に触れる」において、7歳から12歳、20歳から29歳での件数が多く、2つのピークを示した。
- ・「撮影」では20歳から29歳の件数が多く、「見させられた」被害では7歳から12歳での件数が多かった。

表1-5：被害時の年齢

	分析データ数	平均	標準偏差	欠損値
5899データ	5871	15.39	7.43	28
挿入を伴う	1267	16.83	8.91	7
身体に触れる	3747	14.78	6.84	17
撮影	64	20.09	8.19	0
見させられた	378	14.48	5.78	0

表1-6：被害時の年齢の年齢カテゴリ別データ

年齢カテゴリ (歳)	分析データ数	0-6	7-12	13-15	16-17	18-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69
5899データ	5871	567	1699	877	725	526	1226	191	50	9	1
挿入を伴う	1267	157	290	145	79	134	364	72	20	6	0
身体に触れる	3747	346	1190	589	510	327	667	94	20	3	1
撮影	64	3	4	8	13	8	22	3	3	0	0
見させられた	378	27	111	75	70	26	64	3	2	0	0

5. 被害継続年数

- ・起きた出来事が継続した被害であったという件数、およびその継続年数は以下の通りである。（継続年数に継続中は含まず算出）
- ・「5899データ」「挿入を伴う」「身体に触れる」では平均年数が約4年、「撮影のみ」「見させられたのみ」では平均約1年であった。
- ・どの出来事においても1年以内が最も多く、年数の経過に伴い件数は減少する傾向にあった。
- ・しかし、被害継続年数が10年以上という場合も見られ、回答した時点でも被害継続中という回答も見られた。

表1-7：継続被害件数

	被害継続終了	被害継続中	合計
5899データ	2313	273	2586
挿入を伴う	682	64	746
身体に触れる	1375	190	1565
撮影	22	2	25
見させられた	85	7	92

表1-8：被害継続年数の平均と標準偏差

	分析データ数	平均	標準偏差
5899データ	2313	4.07	6.077
挿入を伴う	682	4.25	6.37
身体に触れる	1375	4.44	6.20
撮影	22	1.77	3.24
見させられた	85	1.44	3.20

表1-9：被害継続年数カテゴリ別

被害継続年数 (年)	0-1	2-3	3-7	8-10	11-15	16-20	21-25	26-30	31-
5899データ	1190	331	345	147	147	88	37	19	9
挿入を伴う	336	110	105	41	43	25	10	7	5
身体に触れる	667	184	223	100	101	59	26	10	5
撮影	14	5	1	1	1	0	0	0	0
見させられた	66	7	7	2	2	1	0	0	0

6. 加害者の人数

- ・加害者の人数に関する回答を以下の表にまとめた。
- ・どの出来事においても“一人”が最も多かった。
- ・“不明” 113件のうち、「身体に触れる」での割合が83件（73.4%）と高かった。

表1-10

	一人	複数	不明	欠損値
5899データ	5193	582	113	11
挿入を伴う	1094	172	7	1
身体に触れる	3325	350	83	7
撮影	59	5	0	0
見させられた	361	10	7	0

7. 加害者の性別

- ・加害者の性別・性自認について、回答者記載の内容をまとめたものは以下の表の通りであった
- ・なお、性別・性自認は自由記述で尋ねている。
- ・どの出来事においても「男性」が最も多かったが、「女性」や「不明」の場合、「男女両方」の場合も見られた。

表1-11

対象データ	女性	男性	その他	Xジェンダー	ノンバイナリー	クエスチョニング	トランス男性	トランス女性	無性	決まっていない	中性	両性	クイア	トランスジェンダー	不明	男女両方
5899データ	67	5624	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	46	42
挿入を伴う	12	1219	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	12
身体に触れる	41	3593	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	38	24
撮影	0	63	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
見させられた	0	367	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

8. 加害者との関係

・加害者が回答者にとってどのような関係性の相手であったか、回答は以下の表のとおりであった。回答は択一式である。

・表では省略しているが、正式な項目内容は以下の通りである。

同居している父（実父継父）・同居している母（実母継母）・別居している父（実父継父）・別居している母（実母継母）・親の恋人・兄弟姉妹
親戚（祖父母おじおばいこ など）・配偶者／パートナー／恋人・保育園や幼稚園、小中高、大学の先生や職員・塾や習い事などの先生・友人・
知人・児童生徒学生時代の先輩・児童生徒学生時代の後輩・就職活動で知り合ったOBOG等・仕事の上司・
仕事の取引先、客など逆らいにくい関係者・自分がかかっていた医療機関の医療看護職心理職・自分の居住していた福祉施設の職員・
自分の通っていた福祉施設の職員・見知らぬ人・その他

・どの出来事においても“見知らぬ人”が最も多く、「5899データ」では3332件（56.4%）、「挿入を伴う」では310件（24.3%）、「身体に触れる」では2426件（64.4%）、「撮影」では35件（54.7%）、「見させられた」では355件（93.9%）。

・「挿入を伴う」では、“その他”を含め“見知らぬ人”以外からの被害が8割以上を占める。

- ・「5899データ」のうち、“見知らぬ人”以降多いのは“その他”をのぞくと、“知人”290件（4.9%）、“上司”223件（3.8%）。
- ・「挿入を伴う」のうち、“見知らぬ人”以降多いのは“その他”をのぞくと、“知人”139件（10.9%）、“パートナー”124件（9.7%）。
- ・「身体に触れる」のうち、“見知らぬ人”以降多いのは“その他”をのぞくと、“親戚”132件（3.5%）、“知人”129件（3.4%）。
- ・「撮影」のうち、“見知らぬ人”以降多いのは“その他”をのぞくと、“パートナー”6件（9.4%）、“知人”5件（7.8%）。
- ・「見させられた」のうち、“見知らぬ人”以降多いのは“その他”をのぞくと、“親戚”・“友人”・“知人”・“先輩”がそれぞれ2件（0.5%）。

表1-12

	分析データ数	同居 父	同居 母	別居 父	別居 母	親の 恋人	兄弟 姉妹	親戚	パー トナ ー	教員 職員	塾先 生	友人	知人	先輩	後輩
5899データ	5896	204	13	9	0	21	173	197	170	118	87	158	290	106	11
挿入を伴う	1274	55	1	1	0	10	63	56	124	29	25	62	139	30	2
身体に触れる	3762	124	8	8	0	10	106	132	22	76	54	82	129	67	9
撮影	64	1	0	0	0	0	0	0	6	1	0	4	5	0	0
見させられた	378	1	0	0	0	0	0	2	0	1	0	2	2	2	0

	就活OBOG	上司	取引 先	医療 者	居住施 設	通所 施設	見知ら ぬ人	その他
5899データ	4	223	146	26	2	1	3332	605
挿入を伴う	2	75	65	7	2	0	310	216
身体に触れる	2	114	64	17	0	1	2426	311
撮影	0	4	4	0	0	0	35	4
見させられた	0	1	0	0	0	0	355	12

その他には、ホストファミリー、同級生、同居人、顔見知り、同僚、自治体職員などがあげられた。また、回答を択一式にしたため、複数の加害者が異なる属性だった場合も”その他”に記載されることがあった。

9. 被害時の状態

- ・被害時に回答者がどのような状態であったかを尋ねた質問について、以下に回答をまとめた。
 - ・回答は複数選択が可能である。
 - ・なおそれぞれの項目がどのような状態を尋ねているかは、表の下に示した。そのうち23から29は、22「その他」に記載された内容のうち多く見られたものをまとめた項目である。
- ・「5899データ」、「身体に触れる」、「撮影」、「見させられた」では、多い順に“ 8. 予想していない言動があつて驚いた／どう反応してよいか分からなかった／身体が動かなかった”、“3. あなたは自分に行われていることが何か、良く分からない状態だった”、“10. 怖くて身体が動かなかった”。
- ・「挿入を伴う」のみ“6. 相手に合わせないと、あるいは相手を受け入れないと、安全が守られない／ひどい目に遭うと思った”が最も多く、以下はその他の出来事内容と同様に“ 8. 予想していない言動があつて驚いた／どう反応してよいか分からなかった／身体が動かなかった”、“3. あなたは自分に行われていることが何か、良く分からない状態だった”と続いた。
- ・上位3項目のうち、全ての出来事データに共通していたのは“3. あなたは自分に行われていることが何か、良く分からない状態だった”、“ 8. 予想していない言動があつて驚いた／どう反応してよいか分からなかった／身体が動かなかった”であった。

表1-13

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
5899データ	248	397	2368	490	752	1354	1155	3171	1165	1996	355	1306	162
挿入を伴う	151	135	538	246	319	628	404	617	435	482	242	449	61
身体に触れる	73	234	1522	197	369	606	696	2086	654	1314	96	734	91
撮影	4	4	16	4	6	9	7	27	4	15	2	12	3
見させられた	6	1	140	3	1	32	14	211	24	90	2	61	1

	14	15	16	17	18	19	20	21	22
5899データ	251	46	57	7	13	131	588	172	849
挿入を伴う	166	39	42	5	8	74	300	133	178
身体に触れる	68	4	11	2	4	40	239	33	490
撮影	3	2	1	2	2	2	4	1	13
見させられた	6	6	6	6	6	5	2	6	57

表1-14：その他内訳

	23	24	25	26	27	28	29
5899データ	145	52	60	55	29	18	20

- 1 あなたは愛情表現だと思っていた
- 2 あなたはスキンシップの延長だと思っていた
- 3 あなたは自分に行われていることが何か、良く分からない状態だった
- 4 あなたは相手や相手が言っていることを信じていた（例：先生の言うことは正しいと思った、何もしないと信じていた など）
- 5 相手が自分より上の立場だったので断れなかった
- 6 相手に合わせないと、あるいは相手を受け入れないと、安全が守られない／ひどい目に遭うと思った
- 7 自分の身に起きていることを誰かに知られたくないと思って抵抗が難しかった
- 8 予想していない言動があって驚いた／どう反応してよいか分からなかった／身体が動かなかった

- 9 逃げられないと思って身体が動かなかった
- 10 怖くて身体が動かなかった
- 11 脅されていたので相手を拒否することが難しかった
- 12 現実ではないような感じがした／自分が切り離されているような感じがした
- 13 (薬やお酒等の影響ではなく) 意識がなかった、あるいは眠っていた
- 14 (薬やお酒等の影響で) 意識がなかった、あるいは眠っていた・お酒を飲んで酔っていた
- 15 頭痛薬、安定剤、睡眠薬などを服薬していて／服薬させられていて、意識が朦朧としていた
- 16 持病や怪我があり、とっさの判断や行動がとれなかった
- 17 身体的な障害があった
- 18 知的な障害があった
- 19 精神的な障害があった
- 20 経済的、学業的、人間関係その他の問題で相手に対して「従うしかない」という状況にあった
- 21 逆らったら、自分の秘密がばらされるために「従うしかない」という状況にあった
- 22 上記以外の項目の状態にあった

上記項目以外の状態にあった

- 23 抵抗・拒否・反撃した
- 24 怒り・恐怖・諦め等の感情を抱いた
- 25 逃げる・その場から立ち去る
- 26 満員電車等で物理的に動けない
- 27 力づくで抑えられて身動きが取れない
- 28 大声を出した・叫んだ
- 29 加害に気づいていなかった

その他にも少数であるが、次のような回答が見られた。

遊んでいる・ふざけていると思った／気のせいかもしれない、当たっただけかもしれないと加害に確信が持てない／110番等他者にヘルプを出した

10. 加害者の言動

- ・出来事時に加害者にどのような言動が見られたかを尋ねた質問について、以下に回答をまとめた。
- ・回答は複数選択が可能である。
- ・なおそれぞれの項目がどのような状態を尋ねているかは、表の下に示した。そのうち19から25は「その他」に記載された内容のうち多く見られたものをまとめた項目である。
- ・「5899データ」、「身体に触れる」では多い順に“6. 何も言わず、突然あなたに性加害をした”、“2. 加害者はだんだんと身体を身体を触る/触らせる行為を増やしていった”、“5. 加害者は、こちらが予想していない言動をした”。
- ・「挿入を伴う」では、多い順に“2. 加害者はだんだんと身体を身体を触る/触らせる行為を増やしていった”、“6. 何も言わず、突然あなたに性加害をした”、“7. あなたをだまして、人から見えない場所/人のいない場所に連れ込んだ”。
- ・「撮影」では“6. 何も言わず、突然あなたに性加害をした”が多かった。
- ・「見させられた」では、多い順に“6. 何も言わず、突然あなたに性加害をした”、“5. 加害者は、こちらが予想していない言動をした”、“18. 上記の項目以外の行動をとった”であった。“18”の次に多かったのは“7. あなたをだまして、人から見えない場所/人のいない場所に連れ込んだ”。
- ・上位3項目のうち、全ての出来事データに共通していたのは“6. 何も言わず、突然あなたに性加害をした”であった。
- ・前節【9. 被害時の状態】に比べて加害者の言動の内容は、多岐に渡る。

表1-15：

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
5899データ	674	1404	584	428	1398	3505	944	587	370	138	500	258	467	213	152	279	66	611
挿入を伴う	335	521	288	259	404	499	423	353	275	83	291	144	274	155	105	171	44	138
身体に触れる	280	853	245	137	760	2513	455	200	70	47	180	83	153	44	39	89	19	323
撮影	6	4	2	3	7	40	4	2	3	3	1	3	8	3	3	3	3	3
見させられた	3	2	9	2	96	257	22	11	7	13	4	3	4	2	13	3	13	56

表1-16：その他内訳

	19	20	21	22	23	24	25
5899データ	24	47	29	32	37	36	21

- 1 加害者はその行為を愛情表現だと言っていた
- 2 加害者はだんだんと身体を触る/触らせる行為を増やしていった
- 3 加害者は、自分のしていることが正しいことだと言っていた
- 4 加害者は、「お前が悪い」などあなたに罪悪感を持たせるような言動をした
- 5 加害者は、こちらが予想していない言動をした
- 6 何も言わず、突然あなたに性加害をした
- 7 あなたをだまして、人から見えない場所/人のいない場所に連れ込んだ
- 8 あなたをだまして、性的行為に誘導した
- 9 あなたに性的行為を行うように命令した
- 10 あなたをとつぜん連れ去った
- 11 密室に閉じ込めて、あなたの行動を制限した
- 12 あなたに対して直接暴力はふるっていないが、怒鳴ったり、物を叩いたりした
- 13 逆らったら、身体的、経済的、あるいは学業的に不利な立場に立つと思わされる言動を、加害者がとった
- 14 逆らったら、あなたの秘密がばらされると思わされる言動を、加害者がとった
- 15 被害以前に繰り返し暴力・束縛を行った（身体的虐待、身体的DVなど）
- 16 凶器は使用していないが、脅迫や暴力を行った
- 17 凶器を使用していた
- 18 上記の項目以外の行動をとった

上記の項目以外の行動をとった

- 19 被害者の背後や見えないところから近づいてきた（19件）
- 20 道を尋ねる、挨拶をする等別の話題で話しかけた（15件）
- 21 楽しそう、ニヤニヤしていた（14件）
- 22 遊びの延長、ふざけていた、冗談だと言っていた（13件）
- 23 追いかけてきた、付きまとってきた（13件）
- 24 満員電車内・睡眠時等、被害者が動けない状態に乗じて（12件）

25 普段通り、何もしていないふり、偶然を装う等（11件）

その他にも少数ではあったが、次のような回答が見られた。

被害者に酒・薬物を飲ませた（9件）／金銭等を渡され口止めを要求した（8件）　／自慰行為・性器を見せた（8件）／酒に酔っていた（6件）／力づくで引っ張る、ねじ伏せる、身体を押さえつける（6件）／通りすがり、すれ違いざま（6件）　／「ゴミがついているから取ってあげる」等親切なふり、心配しているふり（5件）　／悪いことだとは思っていない様子（5件）／治療・ケアの一環と言った（3件）／体で払えと、加害者がしたことの対価として要求してきた（1件）／立場を利用して加害しやすいように命令・誘導した（2件）／性的な話題で話しかけてきた（2件）／逃げられないように通路をふさいだ（1件）　／加害と分かるか分からない程度の言い逃れの余地を残していた（1件）／じっと見てきた（1件）

1.1. 被害認識可否

- ・被害に遭った時に、すぐにそのことを「被害」だと認識できたかどうかの質問への回答を以下にまとめた。
- ・「挿入を伴う」では63.6%の人が、被害後すぐに「被害」だと認識できなかったと回答していた。

表1-17：

	分析データ数	はい	いいえ	欠損値
5899データ	5866	2815	3051 (51.7%)	33
挿入を伴う	1266	456	810 (63.6%)	8
身体に触れる	3745	1926 (51.2%)	1819	19
撮影	64	38 (59.4%)	26	0
見させられた	377	211 (55.8%)	166	1

1 2. 被害認識年数

- ・被害後すぐに「被害」だと認識できなかつたと回答した場合、被害だと認識するまでにどのくらいの年数がかかったかを以下にまとめた。
- ・「撮影」のみ平均年数3.5年（標準偏差4.79）、その他は平均約6～7年であった。
- ・被害認識年数をカテゴリ別にみると、“0 - 1年”で被害だと認識したという回答が最も多く、この結果はどの出来事内容においても共通していた。
- ・「5899データ」、「挿入を伴う」、「身体に触れる」では、多い順に“0-1年”、“3-7年”、“2-3年”であった。

表1-18：被害認識年数の平均および標準偏差

	分析データ数	平均	標準偏差
5899データ	3011	7.01	8.08
挿入を伴う	799	7.48	8.24
身体に触れる	1792	6.67	7.86
撮影	26	3.50	4.79
見させられた	167	7.09	8.74

表1-19：被害認識年数のカテゴリ別回答件数

被害認識年数（年）	0-1	2-3	3-7	8-10	11-15	16-20	21-25	26-30	31-
5899データ	941	381	639	326	335	160	94	73	62
挿入を伴う	233	104	164	86	93	48	36	16	19
身体に触れる	573	234	394	199	188	81	47	46	30
撮影	13	4	3	1	5	0	0	0	0
見させられた	55	14	43	20	15	8	2	2	8

1.3. 身近な人への相談

- ・被害について、身近な人（家族や友人、パートナー、知人など）に被害を打ち明けたことがあるかどうかを尋ねた質問の回答を以下にまとめた。
- ・どの出来事内容においても“はい”と答えた6～7割程度であった。
- ・身近な人に被害を打ち明けたのが被害からどの程度年数が経ってからかについては、どの出来事においても“0-1年”が最も多く、「5899データ」では2101件（35.6%）、「挿入を伴う」では369件（29.0%）、「身体に触れる」では1354件（36.0%）、「撮影」では29件（45.3%）、「見させられた」では182件（48.1%）であった。

表1-20：

	はい	いいえ	欠損値
5899データ	3825 (64.8%)	2044	30
挿入を伴う	809 (63.5%)	462	3
身体に触れる	2422 (64.3%)	1323	19
撮影	39 (60.9%)	25	0
見させられた	269 (71.2%)	105	4

表1-21：はじめて身近な人に被害を打ち明けたのは被害後何年か

	分析データ数	平均	標準偏差
5899データ	3760	5.23	8.20
挿入を伴う	799	6.58	8.63
身体に触れる	2376	5.03	8.16
撮影	38	1.63	3.49
見させられた	270	3.63	6.77

表1-22：はじめて身近な人に被害を打ち明けたのは被害後何年だったかのカテゴリ別回答件数

	0-1	2-3	3-7	8-10	11-15	16-20	21-25	26-30	31- (年)
5899データ	2101	266	392	260	308	178	118	72	65
挿入を伴う	369	60	93	74	90	46	33	19	15
身体に触れる	1354	175	248	154	183	108	71	40	43
撮影	29	3	2	2	2	0	0	0	0
見させられた	182	10	26	16	16	10	3	4	3

14. 体の相談

- ・被害後に、身体の状態について病院に相談したことがあるかどうかを尋ねた質問の回答を以下にまとめた。
- ・どの出来事内容においても“いいえ”と答えた人が“はい”に比べて多く、90%以上であった。
- ・病院相談に至るまでの年数では、「撮影」のみ平均約8年、その他の出来事では平均約12～14年であった。

表1-23

	はい	いいえ	欠損値
5899データ	474	5405 (91.6%)	20
挿入を伴う	104	1164(91.4%)	6
身体に触れる	302	3450(91.7%)	12
撮影	3	60(93.8%)	1
見させられた	33	344(91.0%)	1

表1-24：身体の状態について病院に相談したのは被害後何年か

	分析データ数	平均	標準偏差
5899データ	388	12.81	9.83
挿入を伴う	77	14.26	10.463
身体に触れる	257	12.07	9.25
撮影	3	8.33	3.51
見させられた	28	13.93	11.35

表1-25：身体の状態について病院に相談したのは被害後何年かのカテゴリ別回答件数

	0-1	2-3	3-7	8-10	11-15	16-20	21-25	26-30	31- (年)
5899データ	31	33	69	65	69	39	40	18	24
挿入を伴う	369	60	93	74	90	46	33	19	15
身体に触れる	20	22	51	47	44	24	28	9	12
撮影	0	0	1	1	1	0	0	0	0
見させられた	1	6	3	5	2	4	2	1	4

15. 専門家相談

- ・被害後に、被害について専門家や支援機関に相談したことがあるかどうかを尋ねた質問の回答を以下にまとめた。
- ・どの出来事内容においても“いいえ”と答えた人が“はい”に比べて多く、80%以上であった。
- ・専門家相談に至るまでの年数は、平均約10～16年であった。

表1-26

	はい	いいえ	欠損値
5899データ	646	5211 (88.3%)	42
挿入を伴う	139	1131 (88.8%)	4
身体に触れる	402	3330 (88.4%)	32
撮影	8	55 (85.9%)	1
見させられた	45	331 (87.6%)	2

表1-27：はじめで専門家や支援機関に相談したのは被害後何年か

	分析データ数	平均	標準偏差
5899データ	573	15.27	10.60
挿入を伴う	114	16.04	10.77
身体に触れる	368	14.91	10.38
撮影	6	10.67	5.35
見させられた	43	14.42	11.36

表1-28：初めて専門家や支援機関に相談したのは被害後何年かのカテゴリ別回答件数

	0-1	2-3	3-7	8-10	11-15	16-20	21-25	26-30	31-
5899データ	29	37	92	73	95	81	74	37	55
挿入を伴う	7	6	11	17	19	21	15	7	11
身体に触れる	19	25	64	44	60	48	52	25	31
撮影	0	0	2	1	2	1	0	0	0
見させられた	0	6	8	7	7	7	1	1	6

16. 警察相談

- ・被害について警察に相談したことがあるかどうかを尋ねた項目の回答を以下にまとめた。
- ・どの出来事内容においても“いいえ”と答えた人が“はい”に比べて多く、80%以上であった。
- ・警察相談に至るまでの年数は、平均約7～9年であった。

表1-29：

	はい	いいえ	欠損値
5899データ	894	4944 (83.8%)	61
挿入を伴う	208	1052 (82.6%)	14
身体に触れる	559	3170 (84.2%)	35
撮影	7	56 (87.5%)	1
見させられた	55	316 (83.6%)	7

表1-30：はじめて警察に相談したのは被害後何年か

	分析データ数	平均	標準偏差
5899データ	646	9.95	8.11
挿入を伴う	128	9.91	7.50
身体に触れる	430	9.93	8.09
撮影	3	7.67	4.93
見させられた	42	8.55	9.13

表1-31：はじめて警察に相談したのは被害後何年かのカテゴリ別回答件数

	0-1	2-3	3-7	8-10	11-15	16-20	21-25	26-30	31-
5899データ	85	78	136	88	120	71	41	12	15
挿入を伴う	16	16	24	16	28	18	8	0	2
身体に触れる	59	47	95	59	77	45	29	10	9
撮影	0	1	0	1	1	0	0	0	0
見させられた	8	8	7	6	6	4	1	0	2

17. 刑事手続

- ・ 事件を警察に相談したという回答に対し、刑事手続がどのようになったかについて尋ねた質問の回答を以下にまとめた。
- ・ それぞれの項目について「はい／いいえ」で回答を求めた。下記の表は、それぞれの項目に「はい」と回答された件数である。
- ・ “警察に相談した”うち、“警察で被害届が受理された”という回答は、いずれの被害でも約半数であった。
- ・ “警察で被害届が受理された”から“検察で起訴された”という回答は約1割へと減少する。

表1-32：

	対象データ数 (警察に相談したと回答した件数)	警察で被害届が受理された	警察で被害届が受理されなかった／被害届の存在を知らされなかった	検察で起訴された	検察で不起訴になった	裁判で有罪になった	裁判で無罪になった
5899データ	894	415	429	53	56	42	5
挿入を伴う	208	104	94	9	14	8	1
身体に触れる	559	262	270	38	35	29	4
撮影	7	1	6	0	0	0	0
見させられた	55	22	27	2	3	2	0

18. 被害記憶

・被害に遭った経験の一部、あるいはすべてについて、記憶をなくしていた、あるいは思い出せなかった時期があるかどうかを尋ねた質問の回答を以下にまとめた。

- ・“はい”が約15%～22%。記憶が戻るまで、被害後平均約9年～14年かかっている。
- ・「5899データ」、「挿入を伴う」、「身体に触れる」では“3-7年”が最も多く、次いで“11-15年”、“8-10年”。
- ・「撮影」、「見させられた」においても、回答頻度が高いのは“3-7年”、“11-15年”であった。

表1-33：

	はい	いいえ	欠損値
5899データ	1273 (21.6%)	4609	17
挿入を伴う	263 (20.6%)	1007	4
身体に触れる	824 (21.9%)	2931	9
撮影	10 (15.6%)	54	0
見させられた	85 (22.4%)	290	3

表1-34：被害時の記憶が戻ったのは被害後何年か

	分析データ数	平均	標準偏差
5899データ	845	10.33	8.25
挿入を伴う	167	10.80	7.88
身体に触れる	561	10.29	8.49
撮影	4	14.25	7.63
見させられた	62	9.10	6.95

・なお、回答時点でまだ大半の記憶が戻っていないという回答も一定数見られた

表1-35：被害の記憶を喪失していた年数のカテゴリ別回答件数

	0-1	2-3	3-7	8-10	11-15	16-20	21-25	26-30	31-
5899データ	109	99	186	114	128	91	70	36	12
挿入を伴う	14	18	40	25	26	20	14	8	2
身体に触れる	78	69	115	80	82	55	48	24	10
撮影	0	0	1	0	2	0	1	0	0
見させられた	9	8	16	5	10	11	2	1	0

19. 性交を知った年齢

- ・性交とはどのような行為か、明確に知ったのは何歳かを尋ねた質問の回答を以下にまとめた。
- ・すべての出来事内容の回答者において、平均約13歳を示した。

表1-36：

	分析データ数	平均	標準偏差
5899データ	5344	13.46	3.31
挿入を伴う	1159	13.50	3.05
身体に触れる	3410	13.47	3.41
撮影	55	13.18	3.30
見させられた	341	13.38	3.46

20. 性交同意年齢

- ・あなたが性交に伴うリスクも認識した上で、相手と同等の関係で性交に同意できる年齢は何歳だと思いますか、という質問の回答を以下にまとめた。
- ・すべての出来事内容の回答者において、平均約19歳を示した。

表1-37

	分析データ数	平均	標準偏差
5899データ	5331	19.4	3.50
挿入を伴う	1161	19.40	4.15
身体に触れる	3395	19.40	3.34
撮影	56	19.21	3.58
見させられた	338	19.56	3.49

【暴行脅迫要件・抗拒不能要件・不同意性交にかかわるまとめ】

1. 挿入を伴う被害について

1-①被害者状態と被害時年齢

・以下は、挿入を伴う被害について、被害者状態と被害時年齢のクロス表を示した。年齢層ごとに度数・割合の上位3項目（色を付けた部分）を中心に、結果及びそこから考えられることを述べる。

1) 0-12歳（小学生以下年齢）では、「あなたは自分に行われていることが何か、良く分からない状態だった」、「相手に合わせないと、あるいは相手を受け入れないと、安全が守られない／ひどい目に遭うと思った」「予想していない言動があって驚いた／どう反応してよいか分からなかった／身体が動かなかった」が多かった。特に「あなたは自分に行われていることが何か、良く分からない状態だった」は8割と回答件数が多く、この年齢層の特徴は、起きていることが良くわからない状態で、被害にあっているかどうか理解できていないことが読み取れる。

2) 13-39歳では、「相手に合わせないと、あるいは相手を受け入れないと、安全が守られない／ひどい目に遭うと思った」のほかに、「予想していない言動があって驚いた／どう反応してよいか分からなかった／身体が動かなかった」「逃げられないと思って身体が動かなかった」「怖くて身体が動かなかった」等、身体が動かないという回答が多く、被害時フリーズの状態であったことが示された。しかし、次節の加害者の言動からも、明確な脅しや暴力は見られないという回答が多く、暴行脅迫がなくとも、抵抗しにくい状態にあったことが推察される。

3) 上記以外では、「自分の身に起きていることを誰かに知られたくないと思って抵抗が難しかった」「現実ではないような感じがした／自分が切り離されているような感じがした」の回答率も高かった。

・1)～3)から、今回のアンケートにおける挿入を伴う被害において、被害者は状況を理解できない、受け入れざるを得ない、身体が動かない等の状態であることが多く、暴行脅迫がなくとも、抵抗し難い状態にあったことが読み取れる。

表1-38

		愛情表現だ と思っていた	スキンシッ プの延長だ と思っていた	良く分から ない状態	言動を信頼 していた	立場が上で 断れなかつ た	受け入れな いとひどい 目に遭う	誰かに知ら れたたくなく 抵抗困難	驚いた・身 体が硬直し た	逃げられな いと思ひ身 体が動かず	怖くて身体 が動かず	脅されてお り、拒否が 困難
0-6	度数	18	35	127	34	44	69	53	79	54	63	32
	割合	11.5%	22.3%	80.9%	21.7%	28.0%	43.9%	33.8%	50.3%	34.4%	40.1%	20.4%
7-12	度数	26	45	204	66	80	146	108	153	100	131	61
	割合	9.0%	15.5%	70.3%	22.8%	27.6%	50.3%	37.2%	52.8%	34.5%	45.2%	21.0%
13-15	度数	21	9	52	27	38	71	53	77	55	65	35
	割合	14.5%	6.2%	35.9%	18.6%	26.2%	49.0%	36.6%	53.1%	37.9%	44.8%	24.1%
16-19	度数	30	17	57	47	48	118	88	106	89	88	42
	割合	14.1%	8.0%	26.8%	22.1%	22.5%	55.4%	41.3%	49.8%	41.8%	41.3%	19.7%
20-29	度数	43	22	77	56	83	176	76	158	105	107	51
	割合	11.8%	6.0%	21.2%	15.4%	22.8%	48.4%	20.9%	43.4%	28.8%	29.4%	14.0%
30-39	度数	10	5	9	9	19	38	15	30	24	16	12
	割合	13.9%	6.9%	12.5%	12.5%	26.4%	52.8%	20.8%	41.7%	33.3%	22.2%	16.7%
40-49	度数	2	1	8	6	7	8	10	11	6	9	7
	割合	10.0%	5.0%	40.0%	30.0%	35.0%	40.0%	50.0%	55.0%	30.0%	45.0%	35.0%
50-59	度数	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0
	割合	16.7%	16.7%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

表1-39

		現実ではない感じがした	(酒等の影響ではなく)意識なし	(酒等の影響で)意識なし	睡眠薬等の影響で意識なし	怪我等により判断遅滞	身体障がいあり	知的障がいあり	精神障がいあり	経済的な問題等で従うしかなかった	秘密の暴露により従うしかなかった	その他
0-6	度数	65	9	4	3	7	1	1	8	39	18	22
	割合	41.4%	5.7%	2.5%	1.9%	4.5%	0.6%	0.6%	5.1%	24.8%	11.5%	14.0%
7-12	度数	109	13	10	5	2	1	2	4	58	32	33
	割合	37.6%	4.5%	3.4%	1.7%	0.7%	0.3%	0.7%	1.4%	20.0%	11.0%	11.4%
13-15	度数	57	12	7	4	2	0	2	4	35	13	17
	割合	39.3%	8.3%	4.8%	2.8%	1.4%	0.0%	1.4%	2.8%	24.1%	9.0%	11.7%
16-19	度数	80	8	31	7	7	1	1	14	45	31	29
	割合	37.6%	3.8%	14.6%	3.3%	3.3%	0.5%	0.5%	6.6%	21.1%	14.6%	13.6%
20-29	度数	110	13	92	15	15	2	2	31	91	27	54
	割合	30.2%	3.6%	25.3%	4.1%	4.1%	0.5%	0.5%	8.5%	25.0%	7.4%	14.8%
30-39	度数	22	5	17	2	7	0	0	11	27	6	15
	割合	30.6%	6.9%	23.6%	2.8%	9.7%	0.0%	0.0%	15.3%	37.5%	8.3%	20.8%
40-49	度数	5	0	4	1	1	0	0	2	4	6	4
	割合	25.0%	0.0%	20.0%	5.0%	5.0%	0.0%	0.0%	10.0%	20.0%	30.0%	20.0%
50-59	度数	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	4
	割合	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%

1-②加害者言動と被害時年齢

・以下は、挿入を伴う被害について、加害者がとった言動と被害時年齢のクロス表を示した。年齢層ごとに度数・割合の上位3項目（色を付けた部分）を中心に、結果及びそこから考えられることを述べる。

- 1) どの年齢層においても「加害者はだんだんと身体を身体を触る/触らせる行為を増やしていった」が多い点が共通していた。
 - 2) 上記以外では、0-12歳（小学生以下）では「何も言わず、突然あなたに性加害をした」「あなたをだまして、人から見えない場所/人のいない場所に連れ込んだ」が多く、不意打ちや、状況理解が未熟である被害者の年齢を逆手に取った言動であると考えられる。
 - 3) 13-19歳では、「加害者は、こちらが予想していない言動をした」「何も言わず、突然あなたに性加害をした」「あなたをだまして、人から見えない場所/人のいない場所に連れ込んだ」が多かった。
 - 4) 30歳以降では、「加害者はその行為を愛情表現だと言っていた」の回答率が増え、何らかの関係性を利用した加害であることが予測される。
 - 5) 暴行脅迫を含む加害者言動の項目はいずれも回答率は低かった。
- ・1)～5)から、挿入を伴う被害において、加害者は徐々に身体接触を増やす、被害者に準備のない状態で突然加害に及ぶ、加害しやすいようにだます等して誘導するといった内容が多く、暴行脅迫意外の言動をとりながら加害に及んでいたことが読み取れる。

表1-40

		愛情表現と主張	身体接触の増加	行為の正当化	被害者が悪いと責めた	予想外の言動をした	突然に性加害をした	だまして人気がない場所に連れて行った	だまして性的行為に誘導した	性的行為を行うよう命令	とつぜん連れ去った	密室に閉じ込めて行動を制限
0-6	度数	32	84	34	31	42	65	68	45	37	8	32
	割合	20.4%	53.5%	21.7%	19.7%	26.8%	41.4%	43.3%	28.7%	23.6%	5.1%	20.4%
7-12	度数	39	134	52	39	88	134	112	79	63	18	50
	割合	13.4%	46.2%	17.9%	13.4%	30.3%	46.2%	38.6%	27.2%	21.7%	6.2%	17.2%
13-15	度数	43	58	28	34	51	57	50	39	32	8	33
	割合	29.7%	40.0%	19.3%	23.4%	35.2%	39.3%	34.5%	26.9%	22.1%	5.5%	22.8%
16-19	度数	64	88	58	53	72	75	72	63	49	17	66
	割合	30.0%	41.3%	27.2%	24.9%	33.8%	35.2%	33.8%	29.6%	23.0%	8.0%	31.0%
20-29	度数	116	118	84	78	118	130	94	93	67	22	88
	割合	31.9%	32.4%	23.1%	21.4%	32.4%	35.7%	25.8%	25.5%	18.4%	6.0%	24.2%
30-39	度数	28	26	21	16	23	27	19	24	17	5	16
	割合	38.9%	36.1%	29.2%	22.2%	31.9%	37.5%	26.4%	33.3%	23.6%	6.9%	22.2%
40-49	度数	9	9	7	6	9	8	5	7	7	4	4
	割合	45.0%	45.0%	35.0%	30.0%	45.0%	40.0%	25.0%	35.0%	35.0%	20.0%	20.0%
50-59	度数	4	3	2	1	1	1	2	2	1	1	1
	割合	66.7%	50.0%	33.3%	16.7%	16.7%	16.7%	33.3%	33.3%	16.7%	16.7%	16.7%

表1-41

		暴力はなく、怒鳴るなどした	不利な立場におかれる言動をとった	秘密をばらされるところを思わせる言動をとった	繰り返し暴力・束縛を行った	凶器なしで暴力・脅迫を行った	凶器を使用していた	その他
0-6	度数	27	33	19	25	21	6	16
	割合	17.2%	21.0%	12.1%	15.9%	13.4%	3.8%	10.2%
7-12	度数	30	57	38	18	35	13	28
	割合	10.3%	19.7%	13.1%	6.2%	12.1%	4.5%	9.7%
13-15	度数	17	35	22	15	26	5	14
	割合	11.7%	24.1%	15.2%	10.3%	17.9%	3.4%	9.7%
16-19	度数	23	50	29	12	23	12	19
	割合	10.8%	23.5%	13.6%	5.6%	10.8%	5.6%	8.9%
20-29	度数	32	67	28	21	42	6	40
	割合	8.8%	18.4%	7.7%	5.8%	11.5%	1.6%	11.0%
30-39	度数	10	23	10	11	15	1	12
	割合	13.9%	31.9%	13.9%	15.3%	20.8%	1.4%	16.7%
40-49	度数	4	6	6	0	6	0	4
	割合	20.0%	30.0%	30.0%	0.0%	30.0%	0.0%	20.0%
50-59	度数	0	1	1	2	1	1	4
	割合	0.0%	16.7%	16.7%	33.3%	16.7%	16.7%	66.7%

2 身体に触れる被害について

2-① 被害者状態と被害時の年齢

・以下は、挿入を伴わない身体に触れる被害について、被害者状態と被害時年齢のクロス表を示した。年齢層ごとに度数・割合の上位3項目（色を付けた部分）を中心に考察を述べる。

1) 0-29歳では、「あなたは自分に行われていることが何か、良く分からない状態だった」「予想していない言動があって驚いた／どう反応してよいか分からなかった／身体が動かなかった」「怖くて身体が動かなかった」が多かった。

2) 30-49歳では、上位3項目から「あなたは自分に行われていることが何か、良く分からない状態だった」は抜け、「加害者に合わせないと、あるいは加害者を受け入れないと、安全が守られない／ひどい目に遭うと思った」の回答率が増える傾向にあった。

3) 30-39歳では、「経済的、学業的、人間関係その他の問題で加害者に対して「従うしかない」という状況にあった」の回答率も増える傾向にあり、何らかの関係性において、関係性を利用した被害が予測される。

・1)～3)から、挿入を伴う被害において、年齢が低いほど自身に起きている状況を理解することは困難であり、年齢が上がるにつれて近い関係性の中で抵抗し難い状況に追い込まれて被害を受けている状態が予測される。また、1.挿入を伴う被害の結果と同様に、暴行脅迫がなくとも、抵抗し難い状態にあったことが読み取れる。

表1-42

		愛情表現だ と思っていた	スキンシッ プの延長だ と思っていた	良く分から ない状態	言動を信頼 していた	立場が上で 断れなかつ た	受け入れな いとひどい 目に遭う	誰かに知ら れたたくなく 抵抗困難	驚いた・身 体が硬直し た	逃げられな いと思い身 体が動かず	怖くて身体 が動かず	脅されてお り、拒否が 困難
0-6	度数	18	44	265	39	64	80	77	161	69	94	17
	割合	5.2%	12.7%	76.6%	11.3%	18.5%	23.1%	22.3%	46.5%	19.9%	27.2%	4.9%
7-12	度数	24	106	696	82	114	188	262	633	188	441	36
	割合	2.0%	8.9%	58.5%	6.9%	9.6%	15.8%	22.0%	53.2%	15.8%	37.1%	3.0%
13-15	度数	5	23	187	21	31	69	125	358	115	233	11
	割合	0.8%	3.9%	31.7%	3.6%	5.3%	11.7%	21.2%	60.8%	19.5%	39.6%	1.9%
16-19	度数	15	23	214	26	46	114	127	479	169	328	15
	割合	1.8%	2.7%	25.6%	3.1%	5.5%	13.6%	15.2%	57.2%	20.2%	39.2%	1.8%
20-29	度数	8	31	133	22	88	124	86	376	96	194	12
	割合	1.2%	4.6%	19.9%	3.3%	13.2%	18.6%	12.9%	56.4%	14.4%	29.1%	1.8%
30-39	度数	3	6	17	6	20	24	14	60	13	17	4
	割合	3.2%	6.4%	18.1%	6.4%	21.3%	25.5%	14.9%	63.8%	13.8%	18.1%	4.3%
40-49	度数	0	1	2	0	3	4	3	8	2	4	1
	割合	0.0%	5.0%	10.0%	0.0%	15.0%	20.0%	15.0%	40.0%	10.0%	20.0%	5.0%
50-59	度数	0	0	2	1	0	0	0	2	0	1	0
	割合	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%

表1-43

		現実ではない感じがした	(酒等の影響ではなく)意識なし	(酒等の影響で)意識なし	睡眠薬等の影響で意識なし	怪我等により判断遅滞	身体障がいあり	知的障がいあり	精神障がいあり	経済的な問題等で従うしかなかった	秘密の暴露により従うしかなかった	その他
0-6	度数	69	10	0	1	1	0	0	3	27	6	42
	割合	19.9%	2.9%	0.0%	0.3%	0.3%	0.0%	0.0%	0.9%	7.8%	1.7%	12.1%
7-12	度数	245	32	3	0	0	0	1	6	71	12	117
	割合	20.6%	2.7%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.5%	6.0%	1.0%	9.8%
13-15	度数	128	10	3	2	2	0	1	10	24	3	79
	割合	21.7%	1.7%	0.5%	0.3%	0.3%	0.0%	0.2%	1.7%	4.1%	0.5%	13.4%
16-19	度数	180	15	8	0	2	1	1	6	32	2	114
	割合	21.5%	1.8%	1.0%	0.0%	0.2%	0.1%	0.1%	0.7%	3.8%	0.2%	13.6%
20-29	度数	100	21	46	0	3	0	0	8	60	9	109
	割合	15.0%	3.1%	6.9%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	1.2%	9.0%	1.3%	16.3%
30-39	度数	9	1	6	0	3	1	0	4	21	1	18
	割合	9.6%	1.1%	6.4%	0.0%	3.2%	1.1%	0.0%	4.3%	22.3%	1.1%	19.1%
40-49	度数	3	1	2	0	0	0	0	2	1	0	8
	割合	15.0%	5.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	5.0%	0.0%	40.0%
50-59	度数	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1
	割合	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%

2-② 加害者言動と被害時の年齢

・以下は、挿入を伴わない身体に触れる被害について、加害者がとった言動と被害時年齢のクロス表を示した。年齢層ごとに度数・割合の上位3項目（色を付けた部分）を中心に考察を述べる。

1) どの年齢層においても「加害者はだんだんと身体を触る／触らせる行為を増やしていった」「何も言わず、突然あなたに性加害をした」が多い点が共通していた。

2) 上記以外では、0-6歳（就学前年齢）における「あなたをだまして、人から見えない場所／人のいない場所に連れ込んだ」が特徴的であり、状況理解が未熟である被害者の年齢につけこんだ言動であると考えられる。

3) 7歳以降では、「加害者は、こちらが予想していない言動をした」が多く、挿入を伴う被害と同様に不意を突いた加害者の言動が読み取れる。

4) 40-49歳では、「加害者は、自分のしていることが正しいことだと言っていた」の回答率が増える。これは、挿入を伴う被害の結果において30代以降で「加害者はその行為を愛情表現だと言っていた」の回答率が増えていたことと同様の傾向であると考えられ、愛情やその他の理由から加害者自身を正当化しようとする言動が、被害者の年齢が上がることに伴い増えることを示している。

5) 暴行脅迫を含む加害者言動の項目はいずれも回答率は低かった。

・1)～5)から、挿入を伴う被害において、加害者は徐々に身体接触を増やす、被害者に準備のない状態で突然加害に及ぶ、加害しやすいようにだます等して誘導する等が多かった。年齢層によって加害者のとる言動は微妙に変化しているが、暴行脅迫を用いた内容よりも、それ意外の言動をとりながら加害に及んでいたことが読み取れる。

表1-44

		愛情表現と主張	身体接触の増加	行為の正当化	被害者が悪いと責めた	予想外の言動をした	突然に性加害をした	だまして人気のない場所に連れて行った	だまして性的行為に誘導した	性的行為を行うよう命令	とつぜん連れ去った	密室に閉じ込めて行動を制限
0-6	度数	33	103	39	20	80	159	95	39	21	6	30
	割合	9.5%	29.8%	11.3%	5.8%	23.1%	46.0%	27.5%	11.3%	6.1%	1.7%	8.7%
7-12	度数	80	277	84	41	223	741	200	70	21	24	51
	割合	6.7%	23.3%	7.1%	3.4%	18.7%	62.3%	16.8%	5.9%	1.8%	2.0%	4.3%
13-15	度数	30	120	31	18	109	441	46	20	4	2	21
	割合	5.1%	20.4%	5.3%	3.1%	18.5%	74.9%	7.8%	3.4%	0.7%	0.3%	3.6%
16-19	度数	51	173	38	21	161	652	47	37	14	9	25
	割合	6.1%	20.7%	4.5%	2.5%	19.2%	77.9%	5.6%	4.4%	1.7%	1.1%	3.0%
20-29	度数	66	150	40	30	149	438	48	29	8	4	43
	割合	9.9%	22.5%	6.0%	4.5%	22.3%	65.7%	7.2%	4.3%	1.2%	0.6%	6.4%
30-39	度数	17	23	10	7	28	56	15	3	2	2	7
	割合	18.1%	24.5%	10.6%	7.4%	29.8%	59.6%	16.0%	3.2%	2.1%	2.1%	7.4%
40-49	度数	2	2	3	0	5	14	1	1	0	0	1
	割合	10.0%	10.0%	15.0%	0.0%	25.0%	70.0%	5.0%	5.0%	0.0%	0.0%	5.0%
50-59	度数	0	2	0	0	1	2	1	0	0	0	1
	割合	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%

表1-45

		暴力はなく、怒鳴るなどした	社会的に不利な立場に置かれる言動をとった	秘密をばらす言動をとった	繰り返し暴力・束縛を行った	凶器なしで暴力・脅迫を行った	凶器を使用していた	その他
0-6	度数	11	19	8	13	11	1	41
	割合	3.2%	5.5%	2.3%	3.8%	3.2%	0.3%	11.8%
7-12	度数	28	52	11	14	23	8	114
	割合	2.4%	4.4%	0.9%	1.2%	1.9%	0.7%	9.6%
13-15	度数	10	13	1	3	12	3	45
	割合	1.7%	2.2%	0.2%	0.5%	2.0%	0.5%	7.6%
16-19	度数	9	23	8	2	17	3	48
	割合	1.1%	2.7%	1.0%	0.2%	2.0%	0.4%	5.7%
20-29	度数	16	35	16	3	20	4	54
	割合	2.4%	5.2%	2.4%	0.4%	3.0%	0.6%	8.1%
30-39	度数	8	8	0	4	5	0	15
	割合	8.5%	8.5%	0.0%	4.3%	5.3%	0.0%	16.0%
40-49	度数	1	2	0	0	0	0	4
	割合	5.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%
50-59	度数	0	0	0	0	1	0	0
	割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%

【地位関係性を利用した性被害】

- ・地位関係性を利用した性暴力の分析にあたっては、データの把握しやすさなどを考慮して、加害者属性を「親」、「親の恋人・親族」、「見知った人」、「見知らぬ人」、「その他」の5つに大別し、挿入を伴う性被害について図や他の変数とのクロス表を作成した。
- ・「親」 — 「同居父」「同居母」「別居父」「別居母」
「親の恋人・親族」 — 「親の恋人」「兄弟姉妹」「親戚」
「見知った人」 — 「パートナー」「教員職」「塾先生」「友人」「知人」「先輩」「後輩」「就活OBOG」「上司」「取引先や客」「医療従事者」
- ・右の図は、挿入を伴う性被害について、表1-46をもとに加害者属性別にみた性被害の実数と割合を示したものである。この図から、最も実数・割合が多いのは「見知った人」による性被害であることが分かる。それに続き、「見知らぬ人」「親の恋人・親族」による性被害が多い。
- ・2017年における刑法性犯罪の改正では、親や児童養護施設職員といった監護者からの性被害が刑罰の対象とされたが、監護者にはあたらぬ「見知った人」や「親の恋人・親族」といった関係性にある加害者からの性被害も多く発生していることが、この図からは読み取ることができる。

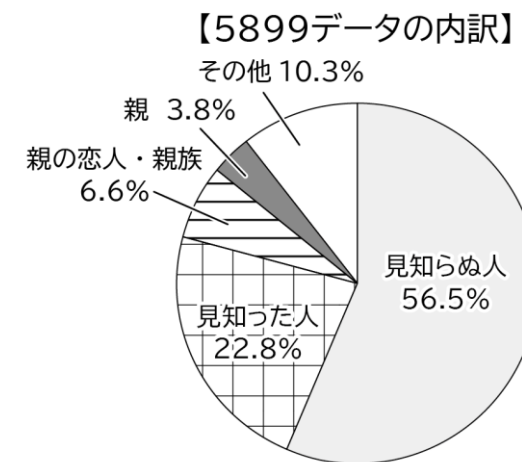
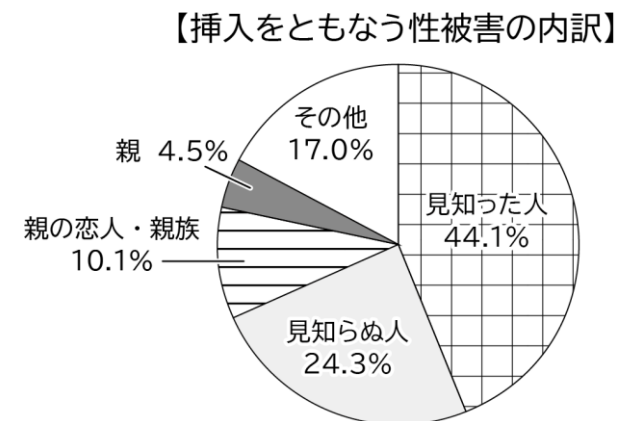


表1-46

		親	親の恋人・親族	見知った人	見知らぬ人	その他
5899データ	度数	226	391	1342	3332	605
	割合	3.8%	6.6%	22.8%	56.5%	10.3%
挿入を伴う	度数	57	129	562	310	216
	割合	4.5%	10.1%	44.1%	24.3%	17.0%



・表1-47は、挿入を伴う性被害が生じた年齢層について、加害者属性ごとの度数と割合を示したものである。

・表1-47からは、加害者属性によって性被害が生じた年齢層に違いが生じていることが読み取れる。加害者が「親」「親の恋人・親族」の場合は7～12歳の割合が最も大きく、次いで0～6歳が大きくなっている。監護者を含む近親者による挿入を伴う性被害は、半数以上が12歳以下に生じている。一方、加害者が「見知った人」である場合は20歳～29歳の割合が最も大きい。これは、「見知った人」に含まれる加害者属性のうち、被害者が20～29歳のときに会った人物からの性被害が多いことを示している。

・表1-48は、表1-47の「見知った人」の内訳を示したものである。20～29歳に生じた挿入を伴う性被害について内訳を細かく見ると、最も度数が多いのは「パートナー」の59件で、次に「知人」が53件となっており、続いて「上司」が47件、「取引先客」が39件となっている。ここから、職場や仕事上の地位関係性を利用して性被害が多く発生していることが見てとれる。

表1-47

		0～6歳	7～12歳	13～15歳	16～17歳	18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	合計
親	度数	21	24	11	1	0	0	0	0	0	57
	割合	36.8%	42.1%	19.3%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
親の恋人 ・親族	度数	36	74	11	0	4	3	0	0	0	128
	割合	28.1%	57.8%	8.6%	0.0%	3.1%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
見知った人	度数	16	38	54	42	84	247	59	16	3	559
	割合	2.9%	6.8%	9.7%	7.5%	15.0%	44.2%	10.6%	2.9%	0.5%	100.0%
見知らぬ人	度数	45	110	37	28	27	57	5	0	0	309
	割合	14.6%	35.6%	12.0%	9.1%	8.7%	18.4%	1.6%	0.0%	0.0%	100.0%
その他	度数	39	44	32	8	19	57	8	4	3	214
	割合	18.2%	20.6%	15.0%	3.7%	8.9%	26.6%	3.7%	1.9%	1.4%	100.0%

表1-48

		0歳～6歳	7歳～12歳	13歳～15歳	16歳～17歳	18歳～19歳	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳以上	合計
パートナー	度数	1	1	8	8	21	59	19	4	2	123
教員	度数	2	6	6	6	3	6	0	0	0	29
塾教員	度数	1	5	9	3	1	5	0	1	0	25
友人	度数	4	3	5	6	11	25	4	3	0	61
知人	度数	6	9	16	13	24	53	16	2	0	139
先輩	度数	1	7	4	3	6	8	0	0	0	29
後輩	度数	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
就職OGOB	度数	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
上司	度数	0	1	2	3	10	47	8	3	1	75
取引先客	度数	0	3	2	0	6	39	12	3	0	65
医療従事者	度数	1	2	0	0	2	2	0	0	0	7
居住福祉	度数	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2

「見知った人」の内訳

- ・表1-49は、挿入を伴う性被害について、加害者属性と性被害発生時の被害者の状態のクロス表を示したものである。
- ・加害者が「親」「親の恋人・親族」である場合に、被害者の状態として最も多く見られるのは「良くわからない状態」であることがはっきりと示されている。（度数・割合の上位10項目を色付きで示している。）
- ・被害者は、性被害を実際に受けたとき、それをすぐに「性被害」として認識できるわけではない。性被害や性行為について十分な知識がない状態でそれらに遭遇したとき、被害者はそれらを十分に認識することができない。「良くわからない状態」というのは、このような状態なのである。（詳しくは『性暴力被害の実際』金剛出版を参照）
- ・一方、「見知った人」においては「受け入れないとひどい目にあう」が最も多い。これは、被害者が社会生活を送るうえで加害者からの脅しなどに直面し、やむなく性行為を受け入れたケースが多いことを示しているといえるだろう。また、「現実的でない感じがした」の度数も多く、これも被害者が被害を受け入れられない状態を示していると考えられる。

表1-49

		愛情表現だ と思っていた	スキンシップ の延長だと思 っていた	良く分か らない状 態	言動を信頼 していた	立場が上で 断れなかつ た	受け入れな いとひどい 目に遭う	誰かに知ら れたたくなく 抵抗困難	驚いた・身 体が硬直し た	逃げられな いと思ひ身 体が動かず	怖くて身体 が動かず	脅されてお り、拒否が 困難
親	度数	14	15	39	20	21	32	20	27	18	28	12
	割合	24.6%	26.3%	68.4%	35.1%	36.8%	56.1%	35.1%	47.4%	31.6%	49.1%	21.1%
親の恋人・親族	度数	12	31	88	14	47	61	70	68	36	41	23
	割合	9.3%	24.0%	68.2%	10.9%	36.4%	47.3%	54.3%	52.7%	27.9%	31.8%	17.8%
見知った人	度数	93	46	147	111	169	291	154	247	162	155	85
	割合	16.5%	8.2%	26.2%	19.8%	30.1%	51.8%	27.4%	44.0%	28.8%	27.6%	15.1%
見知らぬ人	度数	4	11	143	41	21	130	82	162	131	174	71
	割合	1.3%	3.6%	46.4%	13.3%	6.8%	42.2%	26.6%	52.6%	42.5%	56.5%	23.1%
その他	度数	28	32	121	60	61	114	78	113	88	84	51
	割合	13.0%	14.8%	56.0%	27.8%	28.2%	52.8%	36.1%	52.3%	40.7%	38.9%	23.6%

		現実ではない感じがした	(酒等の影響ではなく)意識なし	(酒等の影響で)意識なし	睡眠薬等の影響で意識なし	怪我等により判断遅滞	身体障がいあり	知的障がいあり	精神障がいあり	経済的な問題等で従うしかなかった	秘密の暴露により従うしかなかった	その他
親	度数	25	6	1	2	1	0	1	4	31	5	6
	割合	43.9%	10.5%	1.8%	3.5%	1.8%	0.0%	1.8%	7.0%	54.4%	8.8%	10.5%
親の恋人・親族	度数	49	13	2	1	1	0	1	4	34	14	14
	割合	38.0%	10.1%	1.6%	0.8%	0.8%	0.0%	0.8%	3.1%	26.4%	10.9%	10.9%
見知った人	度数	191	25	106	21	26	3	4	47	175	61	79
	割合	34.0%	4.4%	18.9%	3.7%	4.6%	0.5%	0.7%	8.4%	31.1%	10.9%	14.1%
見知らぬ人	度数	95	10	28	9	4	0	0	4	11	17	29
	割合	30.8%	3.2%	9.1%	2.9%	1.3%	0.0%	0.0%	1.3%	3.6%	5.5%	9.4%
その他	度数	89	7	29	6	10	2	2	15	49	36	50
	割合	41.2%	3.2%	13.4%	2.8%	4.6%	0.9%	0.9%	6.9%	22.7%	16.7%	23.1%

- ・表1-50は、挿入を伴う性被害について、加害者属性と性被害発生時の加害者の言動のクロス表を示したものである。
- ・表1-50で特徴的なのは、「親」「親の恋人・親族」「見知った人」のすべてに共通して、加害者の言動として「身体接触の増加」が最も多いという点である。既刊の『性暴力被害の実際』（金剛出版）において明らかにした通りだが、地位関係性を利用した性被害においては、性被害が発生する前段階として、加害者から被害者に対して「予兆的行動」がとられるのだが、身体接触はその予兆的行動の代表例である。加害者の予兆的行動の存在が、量的調査においても傍証された。
- ・また、「親」においては「愛情表現と主張」も多いが、これは被害者の状態と比較するとまったく非対称的である。

表1-50

		愛情表現と主張	身体接触の増加	行為の正当化	被害者が悪いと責めた	予想外の言動をした	突然に性加害をした	だまして人気のない場所に連れて行った	だまして性的行為に誘導した	性的行為を行うよう命令	とつぜん連れ去った	密室に閉じ込めて行動を制限
親	度数	24	39	18	17	21	24	11	15	13	0	6
	割合	42.1%	68.4%	31.6%	29.8%	36.8%	42.1%	19.3%	26.3%	22.8%	0.0%	10.5%
親の恋人・親族	度数	14	75	11	16	26	63	32	29	28	3	17
	割合	10.9%	58.6%	8.6%	12.5%	20.3%	49.2%	25.0%	22.7%	21.9%	2.3%	13.3%
見知った人	度数	223	226	169	145	185	175	162	165	132	29	136
	割合	40.0%	40.6%	30.3%	26.0%	33.2%	31.4%	29.1%	29.6%	23.7%	5.2%	24.4%
見知らぬ人	度数	21	77	36	24	84	148	134	70	55	41	70
	割合	6.8%	24.9%	11.7%	7.8%	27.2%	47.9%	43.4%	22.7%	17.8%	13.3%	22.7%
その他	度数	53	104	54	57	88	89	84	74	47	10	62
	割合	24.8%	48.6%	25.2%	26.6%	41.1%	41.6%	39.3%	34.6%	22.0%	4.7%	29.0%

		暴力はなく、怒鳴るなどした	不利な立場におかれる言動をとった	秘密をばらされと思わせる言動をとった	繰り返し暴力・束縛を行った	凶器なしで暴力・脅迫を行った	凶器を使用していた	その他
親	度数	15	20	7	14	13	4	7
	割合	26.3%	35.1%	12.3%	24.6%	22.8%	7.0%	12.3%
親の恋人・親族	度数	11	28	16	14	7	2	14
	割合	8.6%	21.9%	12.5%	10.9%	5.5%	1.6%	10.9%
見知った人	度数	70	144	72	51	66	8	55
	割合	12.6%	25.9%	12.9%	9.2%	11.8%	1.4%	9.9%
見知らぬ人	度数	23	35	23	6	44	23	21
	割合	7.4%	11.3%	7.4%	1.9%	14.2%	7.4%	6.8%
その他	度数	25	47	37	20	41	7	41
	割合	11.7%	22.0%	17.3%	9.3%	19.2%	3.3%	19.2%

- ・表1-51は、挿入を伴う性被害について、加害者属性と被害者の被害認識年数（被害認識までにかかった年数）のクロス表を示したものである。
- ・表1-49で見たとおり、「親」や「親の恋人・親戚」からの性被害の場合、被害者は「良くわからない状態」となることが多く、自身の受けた被害を十分に認識できない状態に置かれている。この状態から、自分が性被害を受けたのだと認識するまでには多くの時間がかかるということを、表1-51は示している。（上位5項目を色付きで表示）
- ・「見知った人」「見知らぬ人」の被害認識年数に関しては「0-1年」が最も多いが、「見知った人」「見知らぬ人」のどちらにおいても被害者の3分の1近くが被害認識まで8年以上かかっており、この数は軽視されるものではない。

表1-51

		0-1年	2-3年	3-7年	8-10年	11-15年	16-20年	21-25年	26-30年	31年以上	合計
親	度数	3	6	10	8	8	2	3	4	2	46
	割合	6.5%	13.0%	21.7%	17.4%	17.4%	4.3%	6.5%	8.7%	4.3%	100.0%
親の恋人・親戚	度数	15	13	30	14	16	7	5	1	5	106
	割合	14.2%	12.3%	28.3%	13.2%	15.1%	6.6%	4.7%	0.9%	4.7%	100.0%
見知った人	度数	144	52	57	34	33	27	11	2	3	363
	割合	39.7%	14.3%	15.7%	9.4%	9.1%	7.4%	3.0%	0.6%	0.8%	100.0%
見知らぬ人	度数	38	14	34	16	18	5	5	3	3	136
	割合	27.9%	10.3%	25.0%	11.8%	13.2%	3.7%	3.7%	2.2%	2.2%	100.0%
その他	度数	33	19	33	14	18	7	12	6	6	148
	割合	22.3%	12.8%	22.3%	9.5%	12.2%	4.7%	8.1%	4.1%	4.1%	100.0%

【性交同意年齢について】

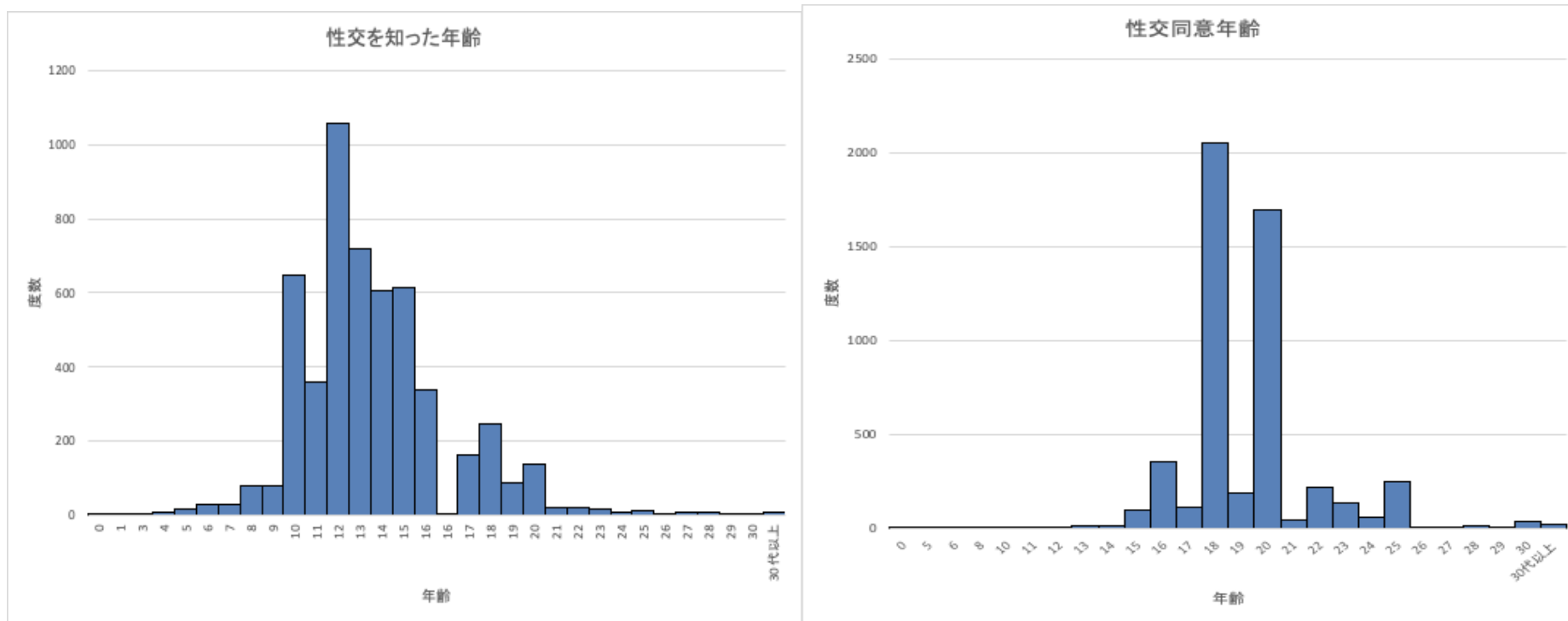
1. アンケート回答者が考える適正な性交同意年齢

・本調査では「性交とはどのような行為か、明確に知ったのは何歳ですか？（性交を知った年齢）」という問いと、「あなたが思う、性交に伴うリスクも認識した上で、相手と同等の関係で性交に同意できる年齢は何歳だと思いますか？（性交同意年齢）」という問いで回答者に質問している。前者が性交の経験有無に関わらず、性教育なども通じてどのような行為か知った年齢、後者がリスクなども認識した上で性交に同意できると回答者が考える年齢である。

・回答者の多くは12歳ころに性交というものを知ったが、リスクなども認識した上で性交に同意できる年齢は18歳、20歳という回答がもっとも頻度が高い。

・性交の存在を知ってから、性交にまつわる様々なリスク、そして自身の社会的な立場を認識して、相手と対等な関係で同意できるようになるには時間がかかると考えられる。

・また20歳と答えている人が多いことから、成人年齢と合わせて考えていることも考えられる。児童福祉法で保護する年齢も18歳だが、リスクも伴う性行為について、現在の法律で児童が保護されている年齢までは性犯罪においても守られるべき、と考えているとも思われる。



2. 被害経験年齢と加害者との関係性について

- ・現行法の性交同意年齢は13歳である。現在検討されている性交同意年齢付近の被害者がどのような被害をどのような関係性の加害者から経験しているか分析した。今回のサンプリングは無作為抽出の代表的サンプリングではないため、一般化は出来ないが、以下のようなことが読み取れる。
- ・監護者、親類からの被害は15歳以降は減る傾向にある。
- ・一方、教育者からの被害は10代を通じて減る傾向になく、むしろ16歳から18歳で増えている年齢もある。
- ・友人知人、見知らぬ人からの被害が10代後半に増える傾向にある。
- ・上記のことから加害者が監護者や親類といった近親者から、教育者、友人知人、見知らぬ人といった少し広い人間関係に10代後半からシフトすることが読み取れる。家庭内では被害を経験しなくとも、より大きな社会に接する機会が増えた際に、加害者に対する社会的立場の弱さから被害に遭うと考えられる。そのため10代後半の被害者を保護するための施策は必要と考えられる。

表1-52 強制性交等罪に類する被害の経験年齢と加害者との関係性

	監護者	親類	パートナー	教育者	友人知人	仕事先	見知らぬ人	その他	合計
12歳まで	44	111	2	14	30	4	155	84	444
13歳	2	4	1	2	7	2	15	8	41
14歳	5	5	2	8	6	0	10	11	47
15歳	4	2	5	5	13	2	12	14	57
16歳	1	0	5	3	8	0	15	5	37
17歳	0	0	3	6	14	3	13	3	42
18歳	0	2	7	2	17	5	14	9	56
19歳	0	2	14	2	24	11	13	10	76
20歳	0	1	11	5	17	7	9	9	59
20代 (21-29)	0	2	48	6	70	81	48	48	303

30代	0	0	19	0	20	20	5	8	72
40代	0	0	4	1	5	6	0	4	20
50代以上	0	0	2	0	0	1	0	3	6

表1-53 強制わいせつ罪に類する被害の経験年齢と加害者との関係性

	監護者	親類	パートナー	教育者	友人知人	仕事先	見知らぬ人	その他	合計
12歳まで	269	644	5	144	259	14	1465	494	3294
13歳	18	45	1	12	46	7	203	40	372
14歳	26	18	7	37	46	0	200	50	384
15歳	9	17	13	19	40	12	265	44	419
16歳	11	8	13	22	24	2	330	26	436
17歳	5	1	3	14	39	15	299	21	397
18歳	0	7	20	14	47	28	191	20	327
19歳	0	3	30	8	66	42	176	31	356
20歳	1	3	16	13	59	30	189	31	342
20代 (21-29)	2	8	71	23	227	276	369	163	1139
30代	1	0	41	1	57	66	46	35	247
40代	2	0	6	1	10	19	8	9	55
50代以上	0	0	2	0	4	2	1	3	12

【公訴時効について】

1. 「挿入を伴う被害」において、被害後すぐに「被害」だと認識できなかった件数は、回答1274件中810件（63.6%）

「被害」だと認識できなかった件で被害の認識までにかかる年数は、平均7.48年（標準偏差=8.24）、最小は1年以内、最大は42年であった。

なお、「被害後すぐに「被害」だと認識できなかった」と回答した件数のうち、被害時年齢別の被害の認識までにかかった年数は以下の通りである。（なお、年数の回答があったもののみをまとめた）

表1-54

被害時 年齢	被害認識年数								総計	認識無群の うち11年以 上の%	回答総数に 占める11年 以上の%
	0-1	2-3	4-7	8-10	11-20	21-30	31-				
0-6	8	5	27	25	42	20	6	133	51.13	43.31	
7-12	25	29	67	23	33	13	8	198	27.27	18.62	
13-15	23	8	21	6	16	8	3	85	31.76	18.62	
16-19	41	26	18	7	21	5	0	118	22.03	12.21	
20-29	104	27	28	18	26	4	2	209	15.31	8.79	
30-39	22	8	2	5	2	1	0	40	7.50	4.17	
40-49	7	1	0	2	0	0	0	10	0.00	0.00	
50-59	3	0	0	0	0	0	0	3	0.00	0.00	

- ・被害時年齢が6歳までの場合、自分の身に起きたことを「被害」だと認識したのが11年以上経過してからだったという回答について、「挿入を伴う被害」の回答総数に占める割合は43.31%であった。
- ・被害時の年齢が7歳以上20代未満の場合、自分の身に起きたことを「被害」だと認識したのが11年以上経過してからだったという回答について、「挿入を伴う被害」の回答総数に占める割合は10~20%程度であった。
- ・ただし、20代でも8.79%、30代でも4.17%は11年以上かかっている
- ・なお、被害認識無群のうち11年以上の%は、11年以上の件数÷総計×100
- ・なお、回答総数に占める11年以上の%は、11年以上の件数÷挿入を伴う被害のその年齢カテゴリ回答件数（表1-6）×100

2. 「挿入を伴う被害」において、被害に遭った後、被害に遭った経験の一部あるいはすべてについて記憶をなくしていた、あるいは思い出せなかった時期があった件数は、回答1274件中263件 (20.6%)

記憶が戻るまでの年数は、平均10.8年 (標準偏差=7.87)、最小は1年以内、最大は34年であった。

ただし、回答時点でまだ大部分の記憶が戻っていないと回答した人も一定数いた。

なお、被害時年齢別の記憶をなくしていた／思い出せなかった年数は以下の通りである。(なお、年数の回答があったもののみをまとめた)

表1-55

被害時 年齢	記憶が戻ってきた年数								総計	認識無群の うち11年以 上の%	回答総数に 占める11年 以上の%
	0-1	2-3	4-7	8-10	11-20	21-30	31-				
0-6	1	0	0	2	6	4	1	14	78.57	7.01	
7-12	2	4	7	12	14	11	1	51	50.98	8.97	
13-15	2	0	8	2	5	2	0	19	36.84	4.83	
16-19	6	6	9	1	5	0	0	27	18.52	2.35	
20-29	3	8	15	7	16	5	0	54	38.89	5.77	
30-39	0	0	1	1	0	0	0	2	0.00	0	

- ・被害時年齢が6歳までの場合、被害の記憶をなくしていた／思い出せなかった年数が11年以上という回答は**7.01%**
- ・ただしどの年代にでも、被害の記憶をなくしていた／思い出せなかった年数が11年以上という回答は数%存在する
- ・なお、被害認識無群のうち11年以上の%は、11年以上の件数÷総計×100
- ・なお、回答総数に占める11年以上の%は、11年以上の件数÷挿入を伴う被害のその年齢カテゴリ回答件数(表1-6)×100

3. 「挿入を伴う被害」において、身近な人に被害を打ち明けた件数は、回答1274件中809件（63.5%）

身近な人に初めて被害を打ち明けるまでの年数は、平均6.58年（標準偏差＝8.63）、最小は1年以内、最大は52年であった。

なお、被害時年齢別の身近な人に初めて被害を打ち明けるまでの年数は以下の通りである。（なお、年数の回答があったもののみをまとめた）

表1-56

被害時 年齢	身近な人に被害を打ち明けるまでの年数								総計	身近告知内 で11年以上 の%	回答総数に 占める11年 以上の%
	0-1	2-3	4-7	8-10	11-20	21-30	31-				
0-6	15	2	5	12	41	23	2	100	66.00	42.04	
7-12	48	8	35	25	54	15	10	195	40.51	27.24	
13-15	31	13	20	11	12	7	0	94	20.21	13.10	
16-19	77	14	18	9	14	1	0	133	11.28	7.04	
20-29	158	20	13	12	11	6	2	222	8.56	5.22	
30-39	28	3	2	0	2	0	0	35	5.71	2.78	
40-49	9	0	0	5	1	0	0	15	6.67	5.00	
50-59	3	0	0	0	0	0	0	3	0.00	0.00	

- ・被害時年齢が6歳までの場合、身近な人に初めて事件を打ち明けるまで11年以上経過している回答は42.04%
- ・被害時の年齢が20代未満の場合、身近な人に初めて事件を打ち明けるまで11年以上経過している回答7～27.24%程度
- ・なお、被害認識無群のうち11年以上の%は、11年以上の件数÷総計×100
- ・なお、回答総数に占める11年以上の%は、11年以上の件数÷挿入を伴う被害のその年齢カテゴリ回答件数（表1-6）×100

4. 「挿入を伴う被害」において、被害について警察に相談したことがあるという件数は、回答1274件中208件（16.3%）

警察に相談するまでにかかった年数は、平均9.91年（標準偏差=7.51）、最小は1年以内、最大は39年であった。

なお、被害時の年齢別の警察に相談するまでにかかった年数は以下の通りである。（なお、年数の回答があったもののみをまとめた）

表1-57

被害時 年齢	警察相談年数								総計	認識無群の うち11年以 上の%	回答総数に 占める11年 以上の%
	0-1	2-3	4-7	8-10	11-20	21-30	31-				
0-6	0	0	3	2	11	7	1	29	79.17	12.10	
7-12	1	2	10	5	21	2	1	33	57.14	8.28	
13-15	6	2	4	1	11	3	0	20	51.85	9.66	
16-19	5	8	4	2	8	0	0	21	29.63	3.76	
20-29	4	4	3	6	1	0	0	24	5.56	0.27	

- ・被害時年齢が6歳までの場合、被害を警察に相談したのが11年以上経過してからだったという回答は12.10%
- ・被害時の年齢が20代未満の場合、警察に相談したのが11年以上経過してからだったという回答10%未満程度
- ・なお、被害認識無群のうち11年以上の%は、11年以上の件数÷総計×100
- ・なお、回答総数に占める11年以上の%は、11年以上の件数÷挿入を伴う被害のその年齢カテゴリ回答件数（表1-6）×100

5. 「挿入を伴わない身体に触れる被害」において、被害後すぐに「被害」だと認識できなかった件数は、回答3764件中1819件（48.3%）

「被害」だと認識できなかった件で被害の認識までにかかる年数は、平均6.67年（標準偏差=7.86）、最小は1年以内、最大は65年であった。

なお、「被害後すぐに「被害」だと認識できなかった」と回答した件数のうち、被害時年齢別の被害の認識までにかかった年数は以下の通りである。（なお、年数の回答があったもののみをまとめた）

表1-58

被害時 年齢	被害認識年数								認識無群の うち11年以 上の%	回答総数に 占める11年 以上の%
	0-1	2-3	4-7	8-10	11-20	21-30	31-	総計		
0-6	21	17	64	49	76	33	13	273	44.69	35.26
7-12	128	114	202	106	132	43	14	739	25.58	15.88
13-15	104	36	59	11	26	6	2	244	13.93	5.77
16-19	151	38	37	10	18	10	0	264	10.61	3.35
20-29	138	22	29	21	12	0	1	223	5.83	1.95
30-39	25	7	3	2	0	0	0	37	0.00	0.00
40-49	4	0	0	0	0	0	0	4	0.00	0.00
50-59	2	0	0	0	0	0	0	2	0.00	0.00

・被害時年齢が6歳までの場合、自分の身に起きたことを「被害」だと認識したのが11年以上経過してからだったという回答について、「挿入を伴わない身体に触れる被害」の回答総数に占める割合は35.26%であった。

・被害時の年齢が7歳以上20代未満の場合、自分の身に起きたことを「被害」だと認識したのが11年以上経過してからだったという回答について、「挿入を伴う被害」の回答総数に占める割合は3.35%~15.88%であった。

- ・なお、被害認識無群のうち11年以上の％は、11年以上の件数÷総計×100
- ・なお、回答総数に占める11年以上の％は、11年以上の件数÷挿入を伴わない被害のその年齢カテゴリ回答件数（表1-6）×100

6. 「挿入を伴わない身体に触る被害」において、被害に遭った後、被害に遭った経験の一部あるいはすべてについて記憶をなくしていた、あるいは思い出せなかった時期があった件数は、**回答3764件中824件（21.9%）**

記憶が戻るまでの年数は、**平均10.29年（標準偏差=8.49）、最小は1年以内、最大は42年**であった。

ただし、回答時点でまだ大部分の記憶が戻っていないと回答した人も一定数いた。

なお、被害時年齢別の記憶をなくしていた／思い出せなかった年数は以下の通りである。（なお、年数の回答があったもののみをまとめた）

表1-59

被害時 年齢	記憶が戻ってきた年数								総計	認識無群の うち11年以 上の%	回答総数に 占める11年 以上の%
	0-1	2-3	4-7	8-10	11-20	21-30	31-				
0-6	2	0	7	4	22	18	1	54	75.9	11.85	
7-12	8	13	28	36	45	23	8	161	47.20	6.39	
13-15	24	12	13	7	26	10	1	93	39.78	6.28	
16-19	39	31	28	13	23	7	0	141	21.28	3.58	
20-29	5	13	39	20	18	13	0	108	28.70	4.65	
30-39	0	0	0	0	1	0	0	1	100	0.15	

・被害時年齢が6歳までの場合、被害の記憶をなくしていた／思い出せなかった年数が11年以上という回答はその年齢回答総数の**11.85%**

・ただしどの年代にでも、被害の記憶をなくしていた／思い出せなかった年数が11年以上という回答は数%存在する

・なお、被害認識無群のうち11年以上の%は、11年以上の件数÷総計×100

・なお、回答総数に占める11年以上の%は、11年以上の件数÷挿入を伴わない被害のその年齢カテゴリ回答件数（表1-6）×100

おわりに

このアンケートは、少しでもいいから自分にもできることをしたい。自分の力は小さいかもしれないけれど、少しでも刑法性犯罪改正を前進させたいと願うOneVoiceメンバー、Springスタッフの思いから生まれました。

一人一人の力は小さくても、一緒に動けば大きな力になります。まさしくSpringの理想が体現された行動だったと思います。

Springは中心的な活動を担っているSpringスタッフの外輪に、OneVoiceメンバーがいるという構造になっています。Springスタッフは担う役割が大きく、関わる時間も長くなるので、体調や家庭・仕事の事情からそこまでの活動はできないけれど、少しでもいいから刑法性犯罪改正に関わりたいと活動されているのがOneVoiceメンバーです。

多様な人たちが集まることで、回答される方に負担がないような言葉の選択、短時間で答えられるような工夫、回答していて辛くなったときはいつでもやめてよいことや、相談先を掲載するなどの様々な配慮が丁寧に話し合われました。

このアンケートが安全で、できる限り負担が少なく、回答しやすいよう考えられたことが5899件の声につながったと思います。

集まった後の分析や考察は、Springスタッフが関わりながら、外部研究者に引き継がれました。

量的調査を分析してくださった目白大学専任講師で性犯罪に関する刑事法検討会の委員でもある公認心理師の齋藤梓さん、質的研究の分析を行ってくれた東洋大学岩田千亜紀助教に改めて御礼申し上げます。

仕事や家庭、研究や活動に多忙な中、共に分析に携わったSpringスタッフにも感謝したいです。

何よりもこの「性暴力の実態アンケート調査」にご回答いただいた皆様に厚く御礼を申し上げます。

思い出したくない出来事を思い出し、答えるのは辛いことだったと思いますが、社会を変える力にしたいと願った皆様の勇気により、この調査結果は何よりも尊く貴重なものとなりました。

OneVoiceメンバー、Springスタッフの思いから始まったこのアンケートが、まるでリレーのように5899件の声が寄せられた貴重なデータとなり、研究者らの考察を得て、性暴力の実態を届けられる意義ある調査報告となったことは、刑法性犯罪改正を多くの人が望んでいることの表れだと思います。

この結果を次にひきつぐのは、社会です。

特に、法律を研究する刑事法学者や、立法を担う政治家の方々、性暴力対応を行う司法関係者や、政策を実行する関係省庁の方々にこの調査報告を重く受け止め、具体的で実行力のある法改正や政策につなげていただけることを願っています。

力を合わせ、性暴力のない社会を共につくりましょう。

一般社団法人Spring代表理事
山本潤